

# 子どもも大人も元気になれる！ (学校支援本部「朝にわ」・桃二小)



↑管理職と朝の挨拶

今回は桃井第二小学校の校庭で行われている「朝にわ」をご紹介します。

10年以上も続くこの「朝にわ」は、遊び場が少なかったり、習い事等で忙しかったりして体を動かす機会がとりにくい児童のためにおもいきり遊ぶ時間を作りたいという当時の校長の思いに共感した、学校支援本部を中心とする地域のみなさんの力で始まりました。

主な活動は見守りボランティアを募り、児童が安心して安全に遊べるように体制を整えます。また、学校と連携を図り参加児童の募集通知の配付、参加児童数の把握・管理、当日の運営等全てを担っています。

火曜日と木曜日の午前7時30分から午前8時15分までの時間、週2回実施する「朝にわ」を通して、学校支援本部の活動を保護者や地域へと広めていくこと、先生との連携を図ることができる学校支援本部ももにわ本部長はお話してくださいました。

見守りボランティアの皆さんは午前7時には学校に集合し、学年ごとに荷物を置くためのブルーシートの準備をしたり、簡単な打ち合わせをしたりします。



参加申込書を提出している児童は200名近くいて、毎回約90~100名の児童が参加しているそうです。集まった児童の表情はとても明るく、校庭で遊ぶのを楽しみにしていることが伝わってきます。1年生は今日が2回目の「朝にわ」参加らしく、1学期はずっと「遊びたいなあ...」という気持ちで、参加する日を待っていたとのこと。児童は決められた場所に自分の荷物を置くと、校庭へ駆け出ていく子、下級生や上級生に声をかける子、見守りボランティアのそばに寄ってくる子などなど、児童一人ひとりが自分のしたいことをしている様子が見られました。固定遊具や鬼ごっこ、ボール遊びなど、様々な遊びが各所で展開されていましたが、どこを見ても異学年が混ざって遊んでいたのが印象的でした。ここが心地よい居場所になっている児童も多いのではないかなと思いました。

本部長の話から、上級生の姿から学ぶ、下級生を見て自己を見つめ直すという異学年交流のよさや一人ではできないことも地域と協力し、みんなで子どもを見守ることやそれを継続することの大切さが伺えました。

見守りボランティアのみなさんにインタビューの感想

子どもとの接点だけでなく、横のつながりができた。

子どもと関わり、笑顔や楽しむ様子を見られて楽しい。

自分自身が元気をもらっている。自分のためでもあるかな。



↑片付けも見守ります。